資料６

令和８年２月定例会（事前）
文教厚生委員会資料
教　育　委　員　会

第４回徳島県学びの多様化学校の在り方検討会議の概要について

１　日　時
令和８年１月１５日（木）午後３時３０分から午後４時３０分まで

２　場　所
徳島県庁　１１階ＣＯ－ＣＡＧＥキッチン（徳島市万代町１丁目１番地）

３　出席者
委員　１１名中９名出席（欠席２名）

４　議　事
（１）「県立学びの多様化学校」における教育理念及び県教育委員会と鳴門教育大学（臨床教育学研究開発機構（仮称））の連携の在り方について
鳴門教育大学大学院　吉井　健治　教授
（２）「県立学びの多様化学校」における教育理念（スクールビジョン）について

５　意見交換における主な発言概要
○吉井教授が提唱する「心の健康科」などの新しい教育アプローチは、不登校支援の枠を超えた意義がある。

○子供や保護者が「ここなら自分も（我が子も）頑張れる」「自分もできるかもしれない」と、希望やワクワク感を持てるビジョンである。

○この学校での実践が、県内の他の学校の改善にもつながり、徳島の教育全体を良くしていく「未来を開く学校」としての役割を期待する。

○ビジョンは固定的なものではなく、実際に運営をしながら、子供たちの状況に合わせて「走りながら考え、変えていく」柔軟性が重要である。

○第４回会議をもって議論を終了することとし、各委員の意見を踏まえた教育理念（スクールビジョン）を、教育委員会において年度内に策定することが確認された。

議　事①

「県立学びの多様化学校」における教育理念及び県教育委員会と鳴門教育大学（臨床教育学研究開発機構（仮称））の連携の在り方について

講師　鳴門教育大学大学院学校教育研究科
吉井　健治　教授

令和7年度第4回徳島県学びの多様化学校の在り方検討会議

2026年1月15日

1. 徳島県立「まなびの多様化学校」における教育理念について
2. 鳴門教育大学臨床教育学研究開発機構について
3. 鳴門教育大学との様々な連携
4. 今後の検討課題

＜参考文献＞

発表者：吉井健治（鳴門教育大学）

1. 徳島県立「まなびの多様化学校」の教育理念について（提案）

不登校急増の背景要因

登校意識	学校魅力	パーソナリティ	対人関係	その他

↓

臨床教育学的アプローチ

心の三大栄養素（自己対象）

自信

仲間 ⟷ 希望

心のケアと成長を促す特設の3科目

心の健康科

自然体験・防災科 ⟷ 表現科

不登校急増の背景要因	要因の説明	課　題
登校意識	欠席の許容、適時適量の登校刺激の不足、再登校援助の不足、等	学校の意義の再発見が必要である。
学校魅力	学ぶ喜びや人と関わる楽しさが得られないこと、等	新しい教育の内容・方法の開発が必要である。
パーソナリティ	欲求不満耐性の低下、ストレス対処法の未学習、等	心の健康教育が必要である。
対人関係	友人関係の希薄化、対人コミュニケーション力の低下、等	チャムづくり（共通感覚の獲得）、グループ体験（協働経験）が必要である。

心の三大栄養素 （自己対象）	説　明
自信 鏡映自己対象 Mirroring selfobject	自分には良いところがないと劣等感を感じていたが、ありのままの自分を映し返してくれる人（鏡映自己対象）との交流を通じて、自尊心が高められ、自信（自分への信頼）がもてるようになる。
希望 理想化自己対象 idealizing　selfobject	現実が無意味に感じられ将来を悲観し無気力だったが、理想や目標をもたせてくれる人（理想化自己対象）との交流を通じて、意欲が高められ、将来への希望がもてるようになる。
仲間 分身自己対象 alterego selfobject	自分の気持ちを分かってくれる人は誰もいないという孤独感を抱えていたが、自分とよく似ている人（分身自己対象）との交流を通じて、共有経験が得られ、親しみと安心感のある仲間がもてるようになる。

心のケアと成長を促す特設の3科目

心のケアと成長を促す特設の3科目は、不登校を経験した子供が心を和らげ、成長に向かうエネルギーを高めるために必要な「まなび」である。これを通して自信、希望、仲間という「心の三大栄養素」が得られる。本科目では、「個別最適な学びと協働的な学び」の統合が考慮されている。

特設の3科目	説　明
心の健康科	不登校生徒は、家庭や学校での困難に直面して自信をなくしたり他者への不信感を感じたりしているが、その一方で新しい自己及び新しい他者との出会いを求め、未来への希望を抱いている。そこで本科目では、臨床心理学に基づいたアプローチにより生徒の「心のケアと成長」を促すプログラムを作成する。指導モデル案として「自己理解」「自尊心」「ソーシャルスキル」「セルフコントロール」等がある。
表現科	不登校生徒は、様々な心理的傷つきを経験するとともに他者との関係づくりに困難さを感じている。そこで本科目では、生徒が自分の率直な気持ちへの気づき、自分の良さや特質への気づきを適切なかたちで表現できるように支援する。生徒は、こうした自己表現を他者から受容・共感してもらうことで自尊心の回復、対人関係能力の獲得により、現実（学校、社会）と交流できるようになる。指導モデル案として「心の表現活動」「アート（音楽、美術）」「匠の技（技術）」「サイエンス（数学、理解、技術）」等がある。
自然体験・防災科	不登校生徒に対して自然体験活動が及ぼす効果について実践研究が進んでいる（不登校生徒の合宿体験、冒険キャンプ等）。こうした自然体験活動は、不登校生徒の対人関係の構築や集団適応力の醸成にも効果が認められている。また、自然体験活動は防災の学習にも有益である。指導モデル案として「海のプロジェクト」「防災の学習」「歩き遍路」等がある。

特設の3科目における具体例

「心の健康科」―自己理解―

- あなたは、それぞれの図形に対してどのような印象をもちますか？
- 自分自身をたとえると、どの図形にちかいですか？
- あとで、近くにいる人と話し合ってみましょう。

「表現科」―表現活動（表現療法体験）―

コラージュ

風景構成法

天使のねんど

「自然体験・防災科」―野外活動―

特設3科目の内容を検討するに当たって、社会性と情動の学習(Social and Emotional Learning)を参考にする。SELには、「自己への気づき」「他者への気づき」「自己のコントロール」「対人関係」「責任ある意思決定」など包括的なプログラムがある。生徒指導提要(文部科学省, 2022)には「社会性の発達を支援するプログラム」として紹介されている。

2. 鳴門教育大学臨床教育学研究開発機構について

臨床教育学は、教育現場の具体的な事例や現象を深く掘り下げ、教育学と心理学などを融合させて人間発達や教育の根本的な課題を探究する学問です。従来の理論を現場で検証するだけでなく、現場の経験から理論を生成することを重視します。いじめ、不登校、等の多様な問題に対して、人間形成の視点からアプローチする側面もあります。

臨床教育学の主な特徴	説　明
実践と理論の往還	教育の現場(学校など)を重要な研究対象とし、そこで生じる問いや問題から理論を構築する。
学際的なアプローチ	教育心理学、臨床心理学、教育人間学、教育哲学など、様々な学問領域の知見を統合して人間や教育を理解しようとする。
人間中心の視点	目の前の人間(子ども、学習者など)の成長発達を多角的に捉え、その支援を目的とする。
多様な研究テーマ	学習指導や生活指導における問題解決、人間の心や脳の発達、教育制度や実践の歴史的解明など、幅広いテーマを扱う。

臨床教育学研究開発機構 ― 5部門の研究内容 ―

部 門	研究内容
【研究部門】	〔教育開発研究〕 ① 「特別な教育課程」の編成及び特設科目の構成や教科等指導法の開発 ② 学習支援ツール開発 〔学校開発研究〕 ③ 不登校の事例・要因に関する調査・分析 ④ 不登校の予防と対応につながる学校モデル(制度、環境、等)の研究
【教育(人材育成)部門】	① 教員養成カリキュラムの開発実施(実習等) ② 教員等研修プログラムの開発実施 ③ 臨床心理士及び公認心理師の養成(実習等) ④ スクールカウンセラー等研修プログラムの開発実施
【支援・連携部門】	① 仲間づくりを促進するオンライン交流プログラム開発 ② 不登校に関する家庭・保護者に対する支援システムの開発 ③ 全国の学びの多様化学校との連携支援
【いじめ対策・防止部門】	① いじめの重大事態等に関する研究 ② いじめの防止に関する実践開発
【発達臨床支援部門】	① 発達支援の必要な子供に対する関わり方についての研究開発 ② 特異な分野に才能のある児童生徒(ギフテッド)の特性をふまえた適切な対応や教育のあり方について研究開発

【研究部門】、【支援・連携部門】における研究開発

テーマ	概 要
【研究部門】 多様性理解・個別支援シートの開発	★状態把握に基づく支援方針の決定 生徒の特性やタイプ等についてアセスメントを行い、支援方針と対応方法を決めるためのシートを開発する。本シートを定期的に実施することにより、生徒の状態の変化を捉え、適切な支援を行う。
【研究部門】 特設科目における指導モデル案の開発	★生徒の「心のケアと成長」を促すプログラム 〔心の健康科〕臨床心理学に基づいたアプローチにより生徒の心理的回復と心理的成長を促すプログラム。 （例）「自己理解」「自尊心」「ソーシャルスキル」「セルフコントロール」 〔表現科〕率直な自己表現を受容・共感してもらい、自尊心の向上と対人関係能力の獲得を促すプログラム。 （例）「心の表現活動」「アート（音楽、美術）」「匠の技（技術）」「サイエンス（数学、理科、技術）」 〔自然体験・防災科〕自然体験活動を通して生徒の心身の発達、対人関係の構築、集団適応力を促すプログラム。 （例）「海のプロジェクト」「防災の学習」「歩き遍路」
【支援・連携部門】 オンライン交流プログラムの開発	★孤独感の緩和と「つながり」の回復 チャムをもたない生徒は、孤独感・疎外感を感じて集団を回避し家に引きこもりがちである。そこで、チャム関係を形成するためのオンライン交流プログラム（メタバース）を開発し、これに参加することでリアルな交流への動機付けを高める。そして、他者と交流する喜びを経験し、他者との「つながり」を得ることを通して、集団に対する抵抗感が低減し、現実適応が促進されるようになる。

【研究部門】における研究開発　―　特設科目における指導モデル案の開発　―

〔心の健康科〕	〔自己〕 ・自己理解 ・自尊心 ・レジリエンス ・ストレス対処法	〔対人関係〕 ・他者理解 ・相互依存 ・コミュニケーション ・ソーシャルスキル	〔セルフコントロール〕 ・感情を調える ・認知を調える ・行動を調える ・意味を探求する
〔表現科〕	〔臨床心理学的側面〕 ・エンカウンター・グループ ・対話の場 ・表現療法体験	〔教科的側面〕 ・アート（音楽、美術） ・体ほぐし（体育） ・匠の技（技術） ・料理作り（家庭）	〔生き方〕 ・ライフプランニング ・地域の文化（お遍路、等）
〔自然体験・防災科〕	〔自然との交流〕 ・野外活動 ・登山 ・山の知識検定	〔危機対応〕 ・防災の学習 ・避難生活のスキル	〔育てる〕 ・農業 ・園芸 ・生物とのふれあい

※特設科目の時間数について（案）1科目あたり、1回2時間、20回、計40時間。 3科目の合計は120時間。
※1科目について20のプログラムを実施する。

3. 鳴門教育大学との様々な連携

ナル★ワン

○ 大学施設の利用（図書館、体育館、等）
○ 様々な体験活動（シーカヤック、等）
○ 実習による支援（心理実習、教育実習）
○その他

鳴門教育大学附属図書館

大学食堂

体育館1階

図書館前に落ち葉でハートができました！

体育館2階（柔道場、剣道場）

吉井ゼミM1、シーカヤック体験
（2025年9月、鳴門市、ウチノ海）

ナル★ワン

お餅つき大会
三味線に合わせて餅つき！
学長、理事も参加！
（2025年12月）

阿波踊り
鳴門教育大学「鳴響連」

「心理実習」及び「教育実習」による支援

※ 実習生は、事前に「不登校と関わる十二の技」「聴き方十二の技」など、不登校への理解と対応の基本を修得する。

「心理実習」 実習の目的・内容	① 生徒個人の心理支援 … 生徒個人の内面や特性を理解し、心のケアと成長を支援する。 ② 生徒集団の心理支援 … 生徒間の架け橋となり、生徒同士の関係作りを支援する。 ③ 「心の健康科」「表現科」「自然体験・防災科」の授業補助
前期:4月～9月	〔曜日〕月、火、水、金 〔時間〕9:00-16:00 〔配置〕各曜日担当2名、計8名 〔期間〕15週程度 〔所属〕 臨床心理学領域M2
後期:10月～3月	〔曜日〕月、金 〔時間〕9:00-16:00 〔配置〕各曜日担当3名、計6名 〔期間〕15週程度 〔所属〕 臨床心理学領域M1

「教育実習」 実習の目的・内容	① 生徒個人の学習支援 … 生徒個人の個別最適な学びを支援する。 ② 生徒集団の学習支援 … 生徒集団の協働的な学びを支援する。 ③ 「心の健康科」「表現科」「自然体験・防災科」の授業補助
前期:4月～9月	〔曜日〕 月、火、水、木、金 〔時間〕9:00-16:00 〔配置〕各曜日担当2名、計10名 〔期間〕15週程度 〔所属〕 学部4年生、教職大学院M2
後期:10月～3月	〔曜日〕〔時間〕〔配置〕〔期間〕は、前期と同様。 〔所属〕 学部3年生、教職大学院M1

4. 今後の検討課題

※ 徳島県教育委員会と鳴門教育大学が協力して、以下の課題に取り組む。
※ 徳島県立学びの多様化学校と臨床教育学研究開発機構が協力して、以下の課題に取り組む。

【関係機関との連携協力】
- 教育支援センター(適応指導教室)との連携協力
- フリースクール等との連携協力
- 引きこもり傾向の不登校児童生徒への学習支援・心理支援

【遠隔教育のシステム構築】
- オンライン学習(オンデマンド教材、授業配信、等)
- メタバースを活用した交流
- メタバースのサポーター(大学生、大学院生)養成

【教員研修】
- 学びの多様化学校における教員研修(県内)の受け入れ

【保護者支援】
- 親の会の開催

参考文献

＜臨床教育学＞

- 河合隼雄（1995）. 臨床教育学入門　岩波書店
- 和田修二、皇紀夫編（1996）. 臨床教育学　アカデミア出版

＜SEL＞

- 山田洋平（2020）. 対人関係と感情コントロールのスキルを育てる―中学生のためのSELコミュニケーションワーク　明治図書
- 渡辺弥生・小泉令三編著（2022）. ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）非認知能力を育てる教育フレームワーク　福村出版

＜自己心理学、不登校＞

- Kohut,H.(1984). *How does analysis cure?*　本城秀次・笠原嘉（監訳），幸順子・緒賀聡・　吉井健治・渡邊ちはる（共訳）（1995）自己の治癒　みすず書房
- 吉井健治（2017）. 不登校の子どもの心とつながる―支援者のための「十二の技」―　金剛出版

議　事②

「県立学びの多様化学校」における教育理念（スクールビジョン）について

ともに創る、自分らしく学ぶ学校

ー「徳島ならでは」の新しい学びのかたちー

- 「県立学びの多様化学校」は、生徒一人一人が自分のペースで学び、自分にあった場所と方法で成長できる学校をめざします。
- 生徒と大人が対話を重ねながら、ともに学校を創り上げることで、学びの場をより豊かにします。
- 「県立学びの多様化学校」は、生徒の個性を尊重し、主体性を育む未来志向のコミュニティです。

自分らしく成長する学校

- 生徒の個性を尊重しながら、自分らしく成長できる学校をめざします。

自分のペースで学ぶ学校

- 生徒にあった方法で学べる学校をめざします。

自分たちでつくる学校

- 生徒と大人が対話を重ねながら、学校行事を考えたり、ルールを決めたりする学校をめざします。

未来をひらく学校

- 社会で生きる力と新しい価値を創造する力を育む学校をめざします。

テーマ1:学校から、一人ひとりの「安心できる居場所」へ

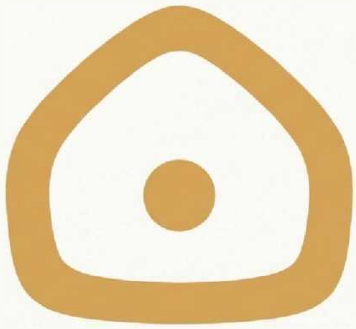
最も多くのご意見で共通していたのは、学びの前提として、子どもたちが心から安心できる 『居場所』であることの重要性でした。 特に、様々な経験を乗り越えて入学する子ども たちにとって、ここは絶対的な安全地帯でなければなりません。

『1人1人に寄り添う』『ありのままが認められる』『安心できる居場所となる学校』等のフレーズもスクールビジョンの説明の中にあれば、なお良い。

失敗を恐れない(失敗はない)学校」
「小さな成長、ステップを認め誉めあえる学校

子ども自身が『自分の居場所』と感じられるような学校になってもらいたい。

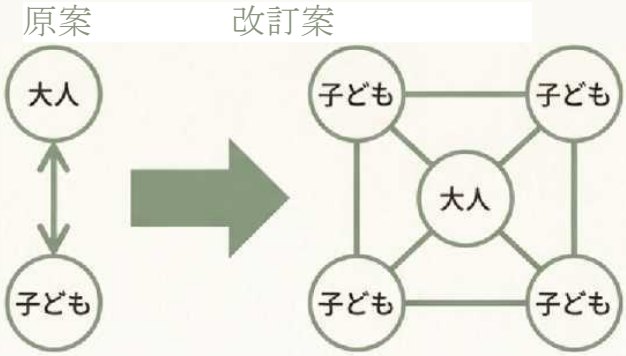
子どもや保護者が『この場所であれば』と希望を持つことができ、そこで安心して学ぶ姿をイメージできることが大切。



NotebookLM

テーマ2：「子どもと大人」から「子ども同士、そして大人」の対話へ

『ともに創る』というコンセプトは、
原案の時点から高く評価されていました。
皆様からのご意見は、この『ともに』 という言葉の解像度をさらに高め、 子どもたちの主体性をより尊重する方向へと導いてくれました。



「生徒同士の関わりを望む生徒もいると 思います

「学習活動についても生徒の意見を取り入れてみてはどうでしょうか。

粉 NotebookLM

テーマ3：徳島ならではの学びと、未来をひらく挑戦

ビジョンが絵に描いた餅で終わらないために、『具体性』と『地域性』が重要であるとのご意見をいただきました。徳島という土地の持つ力を学びに取り入れ、子どもたちが未来を切り拓くための挑戦を後押しする具体的なイメージが求められています。

『徳島ならでは』という言葉を入れるのなら、具体的にどういうところが徳島ならではなのか を分かるようにすれば、もっとよくなると思います。

徳島県ならではの自然や食を通じた体験活動や鳴門教育大学との連携について…言葉以外の イメージ写真や図に盛り込むことで…もっと具体的に伝わる。

「挑戦」の具体化を
挑戦する文化の醸成

なりたい自分に『なる』と
Ｎａｒｕ Ｔｏ

チャレンジを応援する学校
大人も学び続ける学校